

活用方法11

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する指導に対応

一定の立場で書かれた複数の文章を比較し、批判的に読む

＜学習の効果＞ ～育成される資質・能力～

- 内容の信頼性や客観性を吟味しながら読む力が育成される。
- 書き手の表現の仕方を根拠に基づいて判断し、その意味を考える力が育成される。

学習指導要領との関連

国語 第3学年

〔知識及び技能〕

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。

〔思考力・判断力・表現力等〕

Ｃ 読むこと

(1) イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
(精査・解釈)

ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。(精査・解釈)

＜学習方法＞

新聞の社説を比較して討論する

関連:国語3(光村図書)情報化社会を生きる・報道文を比較して読もう(P64～)(6時間扱い)

1 関連するテーマを扱った複数の社説を読み、立場や主張の違いを考える。(1時間)

- ① 単元の目標と学習活動について理解し、学習の見通しをもつ。
- ② 関連するテーマを扱った複数の社説を読み、それぞれの概要、立場や主張の違いについて整理する。 【例】災害にかかわる内容の社説を比較して読む



2019年9月1日 河北新報



2020年8月28日 河北新報



2021年2月17日 山形新聞

2 それぞれの社説の特徴を明らかにし、書き手の表現の意図を考える。(2時間)

- ① 社説を比較して情報を整理し、気づきや考えをまとめる。

【ワークシートの例】 比較する観点を決めて、情報を分類・整理する。

その他	主張	根拠・事例	書き手の立場	特徴的な表現	文章の構成	見出し	比べる観点	
							新聞A	災害をどのような視点で捉えているか
							新聞B	
							新聞C	
							比較しての気づき (共通点・相違点)	

- ② より共感できる社説を選ぶ。
- ③ ワークシートの情報を見返し、選んだ社説のよい点を確認する。(印をつける、書き込む)
- ④ 同じ社説を選んだ人の考えを参考にし、よい点を追記する。

ここがポイント！

主観による判断ではなく、「書き手の立場や意図」を確認したうえで、「表現の効果」を考えます。

2つではなく3つの比較により、それぞれの社説の特徴をより明確にします。

3 異なる社説を選んだ人と討論する。(3時間)

- ① 異なる社説を選んだ生徒同士でグループを作り、それぞれの考えを共有する。
- ② 「それぞれの社説のよさ」について、選んだ社説の立場から討論する。
- ③ 討論を通して気づいたことをメモする。
- ④ 再度、複数の社説を比較して読み、「立場や主張の違いによる表現の意図や効果」について振り返る。

こんな方法もあります

- ・「書くこと」のア(目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた情報の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。)と関連させた活動も考えられます。
- ・「社説」以外にも、新聞の様々な記事を比較することも考えられます。また、記事に限らず、広告を比較することも、作り手の意図を読み取ったり、実生活に生かせる視点を学んだりする点で有効です。